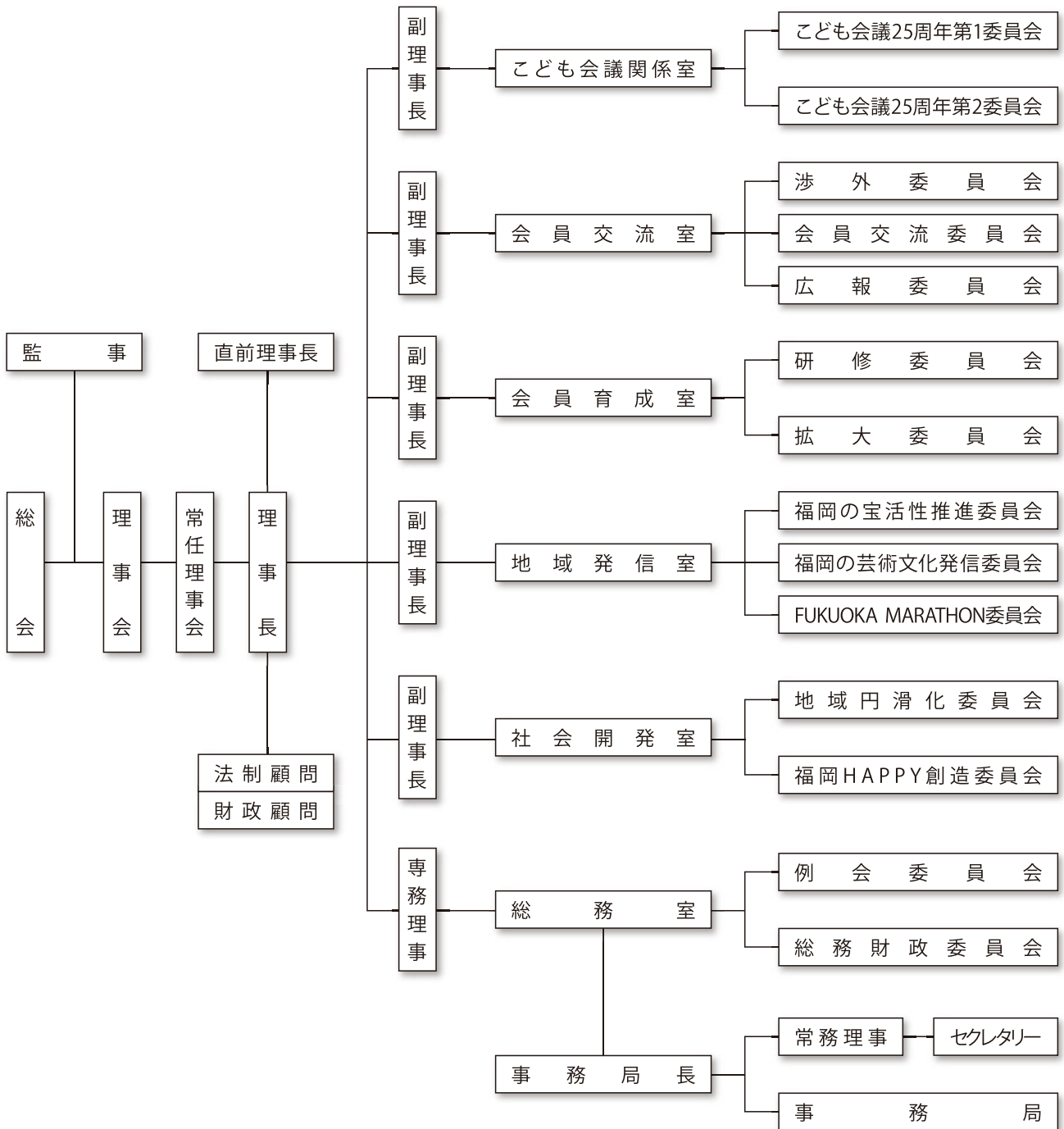


社団法人 福岡青年会議所

2013年度 組織図



社団法人 福岡青年会議所 2013年度 役員

理 事 長	田 川 幸 平
副 理 事 長	岡 部 崇 森 山 新樹 下 田 亨 中 田 泰平 永 江 貴司
専 務 理 事	守 隼 人

直前理事長	末 松 大 和
監 事	中 井 健 雄
法制顧問	光 山 敬 一 笠 伸 太 郎
財政顧問	金 子 孝 行 具 島 秀 男

常 任 理 事	新 嶋 秀 夫 藤 眞 臣 津 田 政 典 井 上 誉 之 阿 部 剛 士 真 木 智 也 野 中 史 晃	事務局長 こども会議関係室長 会員交流室長 会員育成室長 地域発信室長 社会開発室長 総務室長
理 事	藤 田 昌 弘 清 水 浩 和 山 本 恭 平 鈴 木 大 輔 瀬 口 正 岩 元 智 彦 深 野 継 介 秦 勝 良 柴 田 耕 太 郎 山 下 雅 之 日 高 史 貴 田 島 敬 悟 国 本 広 次 伊 藤 忠 相	こども会議25周年第1委員長 こども会議25周年第2委員長 渉外委員長 会員交流委員長 広報委員長 研修委員長 拡大委員長 福岡の宝活性推進委員長 福岡の芸術文化発信委員長 FUKUOKA MARATHON 委員長 地域円滑化委員長 福岡 HAPPY 創造委員長 例会委員長 総務財政委員長
常 務 理 事	大 西 久 恵 平 田 玲 奈 野 田 大 吾 郎 大 津 正 樹 川 崎 慎 吾	(日本青年会議所 副議長) (日本青年会議所 室幹事) (福岡ブロック協議会 委員長)



理事長
田川幸平
President
Kohei Tagawa



直前理事長
末松大和
Immediate Past President
Hirokazu Suematsu



副理事長
岡部 崇
Executive Vice President
Takashi Okabe



副理事長
森山新樹
Executive Vice President
Shinki Moriyama



副理事長
下田 亨
Executive Vice President
Toru Shimoda



副理事長
中田泰平
Executive Vice President
Taihei Nakata



副理事長
永江貴司
Executive Vice President
Takashi Nagae



専務理事
守 隼人
Senior Executive Director
Hayato Mori



監事
中井健雄
Auditor
Takeo Nakai



法制顧問
光山敬一
General Legal counsel
Keiichi Mitsuyama



法制顧問
笠 伸太郎
General Legal counsel
Shintaro Ryu



財政顧問
金子 孝行
Treasurer
Takayuki Kaneko



財政顧問
具島 秀男
Treasurer
Hideo Gushima



事務局長
新嶋 秀夫
Secretary General
Hideo Nijima



常務理事
大津 正樹
Executive Assistant
Masaki Otsu



常務理事
川崎 慎吾
Executive Assistant
Shingo Kawasaki



セクレタリー
西島 大輔
President Assistant
Daisuke Nishijima



セクレタリー
彌登 義明
President Assistant
Yoshiaki Mito

60TH ANNIVERSARY
TRANSMISSION
JUNIOR CHAMBER INTERNATIONAL FUKUOKA



理事長 田川 幸平

Transmission

2013年、社団法人福岡青年会議所は60周年という節目の年を迎えます。

60年間、途切れることなく世代を超えて受け継がれてきた「創始の精神」。
先輩から後輩へと様々な事業を共に行う中で伝達されてきた「情熱と高い志」。
福岡の未来を考え、リスクを恐れず自由な発想で挑戦してきた「創造力と行動力」。
発展途上の集団が、共に学び、同じ想いで事業を行う事で得られる「成長と友情」。

これらは福岡JCのDNAとしてメンバーに脈々と受け継がれており、福岡JCの歴史は、その年々に所属したメンバーの情熱と努力によって作り上げられたものです。この誇りある歴史と素晴らしいDNAを次代へと繋いでいく事がこれからも福岡JCが継続していく為の重要な要素だと考えます。そして、次代へとこれらを繋いでいく為には、61年目の今年も、熱い情熱と高い志を持って、若者らしいリスクを恐れぬ行動力で、私たちの愛する福岡の為に活動を行い、さらなる成長と友情を深めてまいりましょう。

財産は人

人を思い人の為に必死に取り組む事は、何事にも代え難い人生の財産であり、目標を達成する為の大きな原動力となります。多くの仲間や人生の師と出会い、同じ目標に向けて、支えあい、共に苦難を乗り越えていく事が、自己の成長を促し、かけがえのない仲間を作ります。これこそが福岡JCの一番の魅力であり根幹であると考えます。今後、JCの活動内容や形態が変化を遂げても、この根幹は次代に伝えていく必要があると考えます。

また、福岡JCは1,300名を超える特別会員という貴重な財産を有しています。特別会員の方々の存在は、過去行ってきた事業から得た信用や脈々と受け継がれる福岡JCのDNAに匹敵する貴重な財産です。特別会員の方々は、JCにおいても人生においても我々には無い経験や知識を有しています。同世代間による切磋琢磨も人として磨かれる部分は多々ありますが、自分達より成熟した器の大きな方々と多様な形で触れ合う機会を持つ事は我々の成長を促し、魅力ある人間が集う魅力ある団体へと繋がるのではないのでしょうか。JCの最大の醍醐味は出会いです。出会いというのは出るから会えます。出なければ何も始まりません。2013年もメンバー、特別会員、また出向先や外部の方々と多くの出会いを求めて、各委員会が積極的に行動し、多くの交流や機会の共有を生み出す活動を行っていただきたいと願っております。

団塊ジュニア世代の卒業年が近づき、会員減少の危機感は誰しも感じている事です。しかし、団塊ジュニアが卒業後の中心であるS50年からS59生まれの人口は、団塊世代、ジュニア世代でもないS30年からS39生まれの人口よりも多く、その世代が活躍した2000年前後も福岡JCは300名を超えるメンバーがいました。また、景気に関しても当時はバブル崩壊後の失われた10年という時代でした。逆に、一時的に景気が上向き、団塊ジュニア世代が主力となった時代で会員数を伸ばせなかった事は、福岡JCという団体の吸引力が低下している事を示唆しています。今後、会員を維持していく為には、JCの吸引力・発信力を高めていく必要があります。その為には特定の委員会だけでその責を負うのではなく、LOM全体で目指すべきJCのあり方を共有し、会員拡大の為の多様な取り組みをLOM全体で行う事が必要となります。

家族、会社はすべての土台である

JCには「明るい豊かな社会の実現」という理念があります。分かりやすく誰もが共感する理念ではありますが、社会全体というマクロにだけ目を向け活動しては、私たちが拠って立つ肝心の足元を見失います。私たちの足元は家族や会社であり、そこを疎かにしている人間がどんなに高尚な言葉を並べた所で説得力はありません。社会は個々の家庭や会社の集合体であり、自らの足元が幸せでなければ「明るい豊かな社会の実現」はできないと考えます。JCを口実に家庭や仕事から目をそむけ、JCという空間に逃げ込んで一時の達成感や連帯感に自己満足している様では、JCという組織自体も仮想空間でしかなく立派な理念も絵空事もしくは私たちの独りよがりになりません。

一方で、足元だけを見ていると、この閉塞した時代の中ではそれさえも保つことが難しいのではないのでしょうか。井の中の蛙では思考や行動も自らが設けた器の範疇でしかありません。否応なく訪れる変化や問題から家族や会社を守るためには、多様な経験を経ることで自身の器を大きくし、その経験を通じて得たものを自らの足元に還元していく必要があります。私たちは全員が未熟な存在であり、真の経済人に地域のリーダーになるべきトレーニングをJC活動・運動を通じて行っていると考えます。地域・国内・国際の経済、政治、歴史、文化、どこで誰と話しても恥ずかしくないだけの教養と見識、真のリーダーたる人間力を身に着ける為、全ての人を敬い、何事も貪欲に吸収し、失敗を恐れず情熱を持って行動していく事が、自身の器を広げ家族や会社のさらなる幸せにつながるのではないのでしょうか。

家庭も会社も地域社会から独立して存在することはなく、自らが愛する者達を本当に幸せにする為には地域社会をひいては社会全体を良くしていく必要があります。JCの理念は、本来身近な者たちの幸せの実現が発展していったものであると考えています。それを忘れず、自分たちの依って立つ足元を常に大事にし、そこへの思いから生れるエネルギーをJC活動へと注力し、自らの愛する者達の幸せを願い活動する事が必要だと考えます。是非、各々の愛する者達の為に明るい地域づくりを行ってまいりましょう。

自由な発想とは、より多くの経験の先にあるもの

自由な発想とは、多くの経験の先にある権利です。何も無い状態から自由を求めても、糸が切れた凧のように、行き先のわからない発想となります。経験となる土台をしっかりと作ることで、高く飛躍できる条件が揃います。そこから自由な発想が生まれ、突然変異的なワクワクするような事業へと繋がっていきます。幸いJCには過去からの多くの経験と実績、外部団体との連携という飛躍の為の土台が受け継がれております。1年間という限られた期間の中で委員会が有意義な成果を上げる為には、しっかりとこの土台を学び、その上で自由な発想で大胆な仮説を立てて、情熱をもって行動する事が必要です。ここで最も大事な事は、失敗を恐れずとにかく行動を起こす事です。リスクや可能性、些末な事を議論している暇があれば、実現可能にする為のアクションを起こしてください。誰かを動かそうとするならばまずは自身が情熱を持って行動する事が必要です。自らが行動して初めて過去からの土台も生きてきますし、周囲の応援も得られます。その経験がまた福岡JCの血となり肉となり後輩たちを支える土台を強化していきます。またメンバーにとっても、JCだけに限らず、仕事や地域活動において自由な発想を生み出していく為の貴重な経験となるでしょう。

福岡の明るい未来の為に私たちができること

10周年で提言した「福岡によせる期待と提言」に始まり、2010年の「アジア交流首都宣言」に至るまで福岡のまちに対して数々の提言を行ってまいりました。これらの提言は、我々以外の数多くの団体が提言しているものに比べると稚拙で非現実的かもしれません。しかし、福岡JCの先人達が偉大なのは評論に終わるのではなく、その実現に向けて熱意を持って行動したことだと考えています。福岡のマスタープランを変更させた「福岡によせる期待と提言」、売却決定を覆した県庁跡地に関する運動、プロ野球やサッカーの球団誘致活動、25周年を迎えるアジア太平洋こども会議、今では5万人近くが参加するNAKASU JAZZ、それ以外にも福岡の明るい未来の為にこの60年間で大小さまざまな運動や事業を行ってまいりました。その全てが、影響度に違いはあっても、福岡の明るい未来に貢献していると確信しております。

2013年も福岡の明るい未来の実現の為に私たちにできる事が必ずあるはずです。まずは、私たちが住むこの愛する福岡の現状やあるべき未来に自分自身がかかると関心を持つ事から始めましょう。そして委員会毎に考えた事業を、自信を持って行いましょう。規模の大小や事の成否は問いません。大事な事は真剣に福岡の未来に対して向き合い、その理想の実現の為に自信と情熱を持って取り組むことです。そうすればその事業は、必ず福岡の明るい未来につながるでしょう。その経験を活かし、地に足を付けてしっかりと企業活動にまい進し、また家族を通じて地域活動や教育活動にも積極的に関与できれば、福岡の明るい未来への更なる相乗効果も得られるでしょう。

不易流行

形だけを受け継ぎ、繋いでいくだけでは、未来への責務は果たせません。福岡JCが今後も発展・存続していく為には、社会や市民から求められているニーズの変化に合わせて、しがらみや慣習に囚われる事無く、変えるべきは変えていく必要があります。また、何よりも在籍しているメンバーにとって魅力的な団体でなければいけません。

今後、人口が減少に向かっていく中で、引き続き発展存続していく為には、己を顧み継続的な組織の改善が必要となります。我々はあらゆる事柄に対して「本当にそうだろうか」「なぜそうだろうか」と常に自問自答を行う事、視点を変えて考え抜く事でJC活動の本質が何かを掴む努力を怠ってはなりません。メンバーの立場でまた市民の立場で福岡JCが真に魅力ある団体である様に全員で考えてまいりましょう。今までの先輩方がそうしてくれた様に私達も次代にJCの素晴らしいDNAを引き継いでいく事が我々に課された使命ではないでしょうか。

福岡JCの過去から引き継いできた財産、DNAを活用し、私たちなりの自由な発想と仲間という強い原動力を持って、自らが誇れるような、市民から真に必要とされるJCである為にメンバー全員で情熱をもって行動していきましょう。

最後に

JC生活は、メンバーそれぞれ在籍期間もその優先順位も使えるお金や時間や経験できる機会も違います。けれども、一人でも一生の付き合いができる仲間との出会いを、一回でも自然と涙が溢れてくる様な感動を、メンバーは自ら行動を起こす事で必ず経験する事ができます。その為にもまずは一歩自ら率先して行動しましょう。



室長 藤 真 臣

●基本方針

25年の歳月をかけて醸成されてきた「アジア太平洋子ども会議イン福岡」(以下、APCC)。この組織の持っている財産は、たくさんありますが、その主たるものは、幅広い世代(特に若者世代)にわたって構成されている人的ネットワークです。しかしながら、25年の間にアジア情勢だけでなく、人々の価値観や市民ニーズも変化しています。また、歴史があるが故に、その期待度と貢献度も求められており、その財産を時代に合ったものへと昇華させていく必要に迫られています。

今、日本国内だけでなく各都市がグローバル経済への対応を急ピッチで進めていることも踏まえ、福岡のスタンダードではなく、真の意味でのグローバルに視点を置いた発想や行動力も必要なのです。私たち福岡JCも同様に、60周年を迎える今、同じような変革の岐路に立たされていると考えなければいけません。他団体と明確に違う特色を打ち出し、歴史に奢ることなく、大切なものを次につないでいく事、ローカルをグローバルの視点で捉え、組織を動かしていかなければ、自ずと衰退し、遺物のような団体に成り下がってしまいます。私たちは真価を問われているのです。

我々の諸先輩が一見無謀にも思えたものを実現に導いた、このAPCCの25年という節目を我々の前にある一つのチャンスと捉え、次代につながる組織へと双方が向かい始める起点となる一年にしていきます。決して単発の打ち上げ花火ではなく、「新たなものを生み出す事」と「継続していく事」をよく理解・認識し、それを基盤に、若者らしい壮大な構想を実現すべく、二つの委員会が両輪となり責務を全うしていきます。

こども会議25周年第1委員会



■委員長スローガン

『未来へ』

●基本方針

今年、25周年を迎えるアジア太平洋こども会議イン福岡(以下、APCC)。25年前から続くこの事業は多くの先輩方が中心となり、今年までに8000人ものこども大使を受け入れて来ました。このこども大使が成人となり、中には国会議員、医者、パイロットと多くがアジア中で活躍しています。彼らは、APCCに参加して多くの貴重な体験をさせてもらったと言っています。また、多くのこども大使が福岡に来る事でホストファミリーとなって頂いた市民の方々にも身近にアジアを感じて頂ける良い機会になっています。だからこそAPCCを継続していくことこそが福岡の明るい未来に繋がって行く事だと私は信じていますし、継続する事で、当時こども大使が大きくなり今度は福岡の青少年を受け入れ、海外での貴重な体験をする機会を創出していくと考えます。

我々こども会議25周年第1委員会では、APCCの歴史や背景を研究し、長く続く伝統を継承し、30、35周年へと未来へバトンを渡していけるようAPCCとの関わりを見直し、メンバーが積極的に支援する方法を考えて参ります。そして、今年、海外からやってくるこども大使に対しては、将来福岡にまた来たくなるような思い出づくりを考え、また、25周年という記念の年を活かし、広く一般の市民の方に興味を持って頂ける仕組みを考え、こども大使やホストフレンドといった今年の事業参加者の記録と記憶に残る事業を行って参ります。

最後に、福岡に在学する学生に、福岡JCが誇る海外とのネットワークを活かした海外インターンシップ制度を通して、海外派遣という、貴重な経験を提供する事で、将来その経験を活かし、福岡の為に役に立つ人材になるはずで、それが、将来の福岡青年会議所のメンバーとして、APCCへフィードバックをしてくれるものと考え事業を行って参ります。その為に委員会一丸となり、さらなる成長と友情をはぐくんで参ります。

●事業計画

◇こども会議25周年に関する事項

〈目的〉こども会議25周年事業を通して、こども会議の歴史や事業の意義を理解すること。

〈方法〉・こども会議25周年の支援に関する事項

本年の支援のみならず、継続して支援する方法の確立。

・こども会議催事に関する事項

こども会議25周年イベントを盛大に行う為に、各委員会と連携を図る。

◇香港シティJCに関する事項

〈目的〉香港JCとの友好関係を維持、継続する。

〈方法〉双方の周年を行き来し、交流を深めホスピタリティ溢れるアテンドの実行。

姉妹JCの関係を活かし、海外インターンシップ事業の企画と運営を行う。

◇60周年実行委員会に関する事項

〈目的〉福岡青年会議所の60周年を盛大にお祝いすること。

〈方法〉60周年実行委員会と連携を図り、各委員会の担当業務を遂行する。

◇こども会議に関する事項

〈目的〉こども会議25周年事業を通して、福岡青年会議所の歴史や事業の意義を理解すること。

〈方法〉各委員会と連携を図り、円滑な設営、運営を行う。

◇会員拡大に関する事項

〈目的〉社会の原点は人であり、人の原動力は、心から信頼しあえる仲間存在にほかなりません。団塊ジュニア世代の卒業が近づくといった会員減少の危機感をもち、これからもダイナミックな活動を、より多くのメンバーと展開するために会員拡大を行います。

〈方法〉全正会員が拡大活動を常に心がけ、定期的に理事会構成メンバーで拡大推進会議を行う。それらの集約した情報を拡大委員会で取り纏め、新入会の促進を行う。

委員長 藤田 昌弘
副委員長 古賀 幹一
総括幹事 丸本 健一
運営幹事 竹田 光寛
会計幹事 竹井 隆二
広報幹事 城戸 雄光
浅香 祐輔
大塚 秀樹
大川上 伸大
佐藤 友紀
田中 一希
山上 祥吾
吉田 賢太郎
吉田 智博

委員会年間スケジュール

	上程スケジュール	行 事		上程スケジュール	行 事
2012年					
11月		(釜山JC60周年記念式典)12日	6月		ファミレク ASPAC(韓国光州)13日-16日
12月			7月		サマコン(横浜)20日-21日 こども会議イベント20日
2013年					
1月		京都会議17日-20日	8月		入会審査(後期)
2月		60周年記念式典 近出	9月		
3月		60周年記念事業 第3エリア合同例会(福岡)	10月		全国大会(奈良)3日-6日 やすらぎ荘JCキャンプ
4月		入会審査(中期) APCCチャリティゴルフ	11月		世界会議(リオデジャネイロ)5日-10日
5月	□討議 (APCCイベント事業計画)	広島定期交歓会(福岡)	12月		入会審査(前期) 送る夕べ10日

こども会議25周年第2委員会



■委員長スローガン

『限られた時間を大切に、無限の可能性に挑戦しよう!』

●基本方針

本年、福岡JCは60周年を迎えます。これは単に私たちは60年目に在籍しているメンバーと考えるのではなく、過去に諸先輩方が一年一年を大切に過ごし積み重ねた結果が、本年の60周年であることを意識しなくてはなりません。JCは単年度制、また入会した時期や年齢も様々であるが、共通なのはJCを通して多くの出会いと経験を頂いたこと、そしてこの出会いと経験があったからこそ今の自分があるのです。

60周年を迎える年に在籍できたことに感謝し、将来のJCメンバーのためにも我々には一年間を無駄にしないことが責務であるのです。だからこそ、メンバー一人ひとりの特性に合ったステージを作り、各々が諸先輩方から受け継いできたものを自らが橋となり委員会メンバーで共有し合うことが、日々のメンバーの成長へと繋がり、更に成長する福岡JCの糧になると私は考えます。

本年、25周年を迎えるAPCCも福岡JCが築き上げ、受け継いできたことが25周年と繋がり、今では福岡JCだけのものではなく、福岡のまちの国際的な財産へととなり、国際交流の発信の場となりました。しかし、この“国際的な場”に対応できている人材は残念ながら多くはありません。

物づくりの時代から発想の時代になった今だからこそ“真のグローバルリーダーとは何か？”を考え活動して参ります。福岡の財産としてあり続けるために、未来の福岡、そして未来のJCメンバーのためにも限られた時間の中で自らが率先して行動し、メンバーと常に同じ目標に向かい挑戦する楽しさと、達成感を共に味わいます。同じ道を歩んでくれるメンバーがいてくれるからこそ、足並が揃い全員が成長と甲斐ある一年を過ごすことになるのです。私はメンバー全員の気持ちを常に受け入れる覚悟を持ち、国内にある704LOMの中でNO.1の委員会運営を行いAPCCの事業を通し世界が注目するFUKUOKAになることを目指し、世界中に平和を発信し続けることも会議にとって更なる大きな一歩となる素晴らしい25周年を迎えられるよう全力で取組んで参ります。

●事業計画

◇こども会議25周年に関する事項

〈目的〉グローバルリーダーの育成

〈方法〉グローバル化が進む世の中で、グローバル対応力が向上した人材の育成をJCらしい時代の価値観にあった発想

で福岡のまちの明るい未来へ繋げていく。

◇ASPAC誘致検討に関する事項

〈目的〉福岡JCメンバーにとっての国際意識の再向上

〈方法〉開催経験のある国内LOMからASPACに関する情報を収集し、誘致方法に関する検証とピットブックの作成

◇60周年実行委員会に関する事項

〈目的〉福岡JCの60周年を盛大にお祝いすること。

〈方法〉60周年実行委員会と連携を図り、各委員会の担当業務を遂行する。

◇こども会議に関する事項

〈目的〉こども会議25周年事業を通して、福岡JCの歴史や事業の意義を理解すること。

〈方法〉こども会議関係者と連携を図り、各委員会の担当業務を遂行する。

◇会員拡大に関する事項

〈目的〉社会の原点は人であり、人の原動力は、心から信頼しあえる仲間存在にほかなりません。団塊ジュニア世代の卒業が近づくといった会員減少の危機感をもち、これからダイナミックな活動を、より多くのメンバーと展開するために会員拡大を行います。

〈方法〉全正会員が拡大活動を常に心がけ、定期的に理事会構成メンバーで拡大推進会議を行う。それらの集約した情報を拡大委員会で取り纏め、新入会の促進を行う。

委員長 清水浩和
副委員長 加藤邦忠
総括幹事 山田勝彦
運営幹事 村山嘉一
会計幹事 横山知佳
広報幹事 太田茂樹
(出向理事) 大西久恵
杵築宏治
金佑樹
杉山弘剛
竹松大輔
野方浩之
原健三朗
深堀通
宮田昭雄

委員会年間スケジュール

	上程スケジュール	行 事		上程スケジュール	行 事
2012年					
11月		(釜山JC60周年記念式典)12日	6月		ファミレク
12月			7月		グローバルリーダー育成事業 サマコン(横浜)20日-21日 こども会議
2013年					
1月		京都会議17日-20日	8月		入会審査(後期)
2月		60周年記念式典 近出	9月		
3月		60周年記念事業 第3エリア合同例会(福岡)	10月		全国大会(奈良)3日-6日 やすらぎ荘 JCキャンプ
4月		入会審査(中期) APCCチャリティゴルフ	11月		世界会議(リオデジャネイロ)5日-10日
5月	□討議 (グローバルリーダー育成事業計画)	広島定期交歓会(福岡) ASPAC(韓国光州)22日-25日	12月		入会審査(前期) 送る夕べ



室 長 津 田 政 典

●基本方針

福岡 JC は、これまで「まちづくり」「ひとづくり」を目的とした数多くの素晴らしい事業を実施してまいりました。その行動原理や突き動かす力は自分たちが住み暮らすこのまちをよくしたいという想いだと確信しています。同時に私たちの力の源となっているのは諸先輩方との交流や現役メンバー同士の交流「ひと」と「ひと」との交流です。60周年を迎える今年度、会員交流室では永きにわたり培われてきた「交流」の意義、これまで先輩方から紡がれてきたものをどのように次代へ紡いでいくべきなのかを再確認し、さらなる力になるべく交流事業を実施、参加した皆様が楽しめると同時に今後に向けた活力になる運営を目指し取り組んで参ります。

渉外委員会では日本 JC 出向者の支援とともに福岡 JC を代表し、自信を持って全国の JC メンバーと交流を図って参ります。また送る夕べ事業では大切な伝統は守りながらも新しい試みにも果敢に挑戦し、メンバーを巻き込みながら一体感を持った設営を行って参ります。

会員交流委員会では趣味の会を通じて、諸先輩方と現役メンバーとの交流を図る場という事を常に意識し、楽しく設営する事はもちろん、交流の大切さを現役メンバーに体感していただけるよう運営を行って参ります。

広報委員会では、我々の活動、運動を我々だけで終わらせるのではなく継続的に広く発信し続け、他団体、一般の皆様にも共感を得られるようなブランディングを行って参ります。またメンバーに対しても、他メンバーがどのような活動を行っているのか等、メンバー同士の交流の一助となる様な広報活動を行って参ります。

私自身会員交流室長として一年を通し「交流」を行う、また「交流する場」を作っていくことで、各委員会が大きな気づきを得、成長していくためのサポートを全力で行って参ります。

渉 外 委 員 会



■委員長スローガン

『ノンストップで行こう!』

●基本方針

JC生活は、メンバーそれぞれ在籍期間もその優先順位も使えるお金や時間や経験できる機会も違います。ですがこの渉外委員会は、日本JC出向者を支援するという所務を頂き、日本JCで活躍されている他の地域のLOMメンバーの方達と出会い、お互いに成長する機会を、より多く与えられています。その機会を活かし、まずは委員会メンバーが、そして委員会メンバーからLOMメンバーへと、委員会から福岡へ、そして日本へと意識を向けて頂くよう図ります。そして出向者からは、多様な経験を経ることによって得たものを、LOMへと還元して頂けるよう、委員会として何が出来るのかを模索します。

そして本年度の「送る夕べ」は、48年生が40歳という一つの区切りを迎え、新たなスタートを切る場と考えます。お世話になった彼らを、渉外委員会ならではの、心を込めた設営をもって、現役とシニアの方々が一体となった設営で送り出し、彼らから、今までの経験で培ったものを、つまり福岡JCメンバーとしてのDNAを、現役が受け継ぎ、そして次代に引き継いでもらえるように致します。

この委員会は福岡を離れることが多く、12月までしっかりと所務がありますが、各LOMの理事長をされるほどの方々をはじめ、いろんな個性、職業の日本JCメンバーと知り合いになれるという楽しさがあります。また、お世話になった48年生の方々を、我々の設営で送りだすことができるという機会も与えられています。必ず楽しい委員会になります。1年間、止まること無く、共に楽しんでいきましょう!

●事業計画

◇日本JC出向者支援に関する事項

〈目的〉日本JC出向者が万全の状態でき活動できる環境をつくりあげる。

〈方法〉笠地域グループ担当常任理事の補佐を遂行する。出向者のスケジュールや活動状況を把握し、福岡JCメンバーへと発信することにより、メンバーの出向への理解を深めてもらう。また、出向されたメンバーの経験をLOMへ返す手法を模索する。

◇送る夕べの企画・実施

〈目的〉本年度卒業される48年生のみなさんを特別会員、現役メンバーと共に祝いし、新しいスタートを切って頂くこと。

〈方法〉事前に48年生のみなさんと密に連絡を取り合い、48年会と懇親を深めることによって、48年生の福岡JCへの思いを高めて頂きます。当日もメンバー全員がお祝いというベクトルで一体となるような設営を遂行する。

◇サマコンの参加者支援

〈目的〉日本JCに出向し、サマコンで活動されている出向者に対して慰労し、メンバー同士の懇親を深めること。

〈方法〉横浜で日本JC出向者の皆さんを慰労し、懇親を深める。また、その様子や出向先での活動情報をLOMへと発信することにより、福岡JCメンバーに出向者への理解を深めてもらう。

◇60周年実行委員会に関する事項

〈目的〉福岡JCの60周年を盛大にお祝いすること。

〈方法〉60周年実行委員会と連携を図り、各委員会の担当業務を遂行する。

◇こども会議に関する事項

〈目的〉こども会議25周年事業を通して、福岡JCの歴史や事業の意義を理解すること。

〈方法〉こども会議関係室と連携を図り、各委員会の担当業務を遂行する。

◇会員拡大に関する事項

〈目的〉社会の原点は人であり、人の原動力は、心から信頼しあえる仲間存在にほかなりません。団塊ジュニア世代の卒業が近づくといった会員減少の危機感を持ち、これからもダイナミックな活動を、より多くのメンバーと展開するために会員拡大を行います。

〈方法〉全正会員が拡大活動を常に心がけ、定期的に理事会構成メンバーで拡大推進会議を行う。それらの集約した情報を拡大委員会で取り纏め、新入会の促進を行う。

委員長 山本 恭平
副委員長 西村 光洋
総括幹事 鐘ヶ江 琢磨
運営幹事 石村 良平
会計幹事 下野 孝幸
広報幹事 井川 陽介
(出向理事) 平田 玲奈
有光 麻美
久保 尊善
佐々木 信吾
菖蒲 徹秀
新宮 秀一
土田 敬博
富永 泰輔
光安 慎一郎
粉井 公貴

委員会年間スケジュール

	上程スケジュール	行 事		上程スケジュール	行 事
2012年					
11月		(釜山JC60周年記念式典)12日	6月	□討議□審議□協議□審議(送る夕べ事業計画)	ファミレク
12月			7月		サマコン(横浜)20日-21日 こども会議
2013年					
1月		京都会議17日-20日	8月		入会審査(後期)
2月		60周年記念式典 近出	9月		
3月		60周年記念事業 第3エリア合同例会(福岡)	10月		全国大会(奈良)3日-6日 やすらぎ荘 JCキャンプ
4月	□討議□協議□協議□協議(送る夕べ事業計画)	入会審査(中期) APCCチャリティゴルフ	11月		世界会議(リオデジャネイロ)5日-10日
5月	□討議□協議□協議□協議(送る夕べ事業計画)	広島定期交歓会(福岡) ASPAC(韓国光州)22日-25日	12月		事業実施(送る夕べ事業) 入会審査(前期)

会 員 交 流 委 員 会



■委員長スローガン

『出会いを大切に!』

●基本方針

JC活動の最大の醍醐味は出会いです。現役メンバー同士の出会いは勿論、福岡JCを60年間、世代を超えて受け継がれてきた先輩方と、色々な機会を通じて出会うことが出来るのが最大の魅力です。

我々会員交流委員会は、そんな素晴らしい先輩方と高い志を持った現役メンバーが、世代や年代の垣根を越えた新しい「絆」と「パワー」が生まれる様な楽しい集いの場にして頂く為に、一年間常に人との出会いに感謝の気持ちを持って交流促進活動を行って参ります。

広島JCメンバーと福岡JCメンバーの30年間続く広島定期交歓会では、広島から来て頂くメンバーの皆様が生涯の思い出に残る様に、福岡JCならではのホスピタリティ溢れた設営を行って参ります。

そして我々は、JCメンバーである前に企業人であり、会社や社員そして家族の存在なしでは充実したJC活動を行うことはできません。

身の周りの人を幸せにする為に、そして福岡を今以上に明るい豊かなまちにする為に、JC活動を通じた様々な交流の中で新しい気づきを得てもらい、JCメンバー全員が真の地域のリーダーとなるための教養や人間力を身につけるきっかけの一助となるように、まずは委員会メンバー全員が共に切磋琢磨し、共に悩み、共に楽しみながら、委員会メンバー全員が成長していく委員会を目指します!

●事業計画

◇シニアクラブに関する事項

〈目的〉シニア総会を開催し、前年度の会計報告ならびに本年度の活動内容をシニアメンバーに伝える。
〈方法〉シニア会長・シニア専務・シニア事務局長と調整をはかり、47年生と連携を取って企画・設営を行う。

◇OBと現役の交流促進に関する事項

〈目的〉永続的に人間同士が集い、活力のある団体にする。
〈方法〉OBと現役との様々な交流の場をつくり、多くの交流や機会の共有を生み出す活動を行う。

◇JCメンバーの指導力向上に関する事項

〈目的〉指導力を向上することにより、家族や会社、そして社会のさらなる幸せにつなげる。
〈方法〉メンバーの指導力向上に対する認識や意見を集約・分析して、そこから得られた結果をもとに、今後の指導力向上の道標になるものを発信する。

◇広島JCとの交流に関する事項

〈目的〉定期交歓会を行うことで、広島JCとの絆をより深いものにする。
〈方法〉福岡JCメンバーへの参加促進を行うと共に、広島JCの担当委員会との連携により、たくさんのメンバーで交流が深められる交歓会を行う。交歓会に参加して頂いた方々の出会いが意義深いものになるように心を込めた設営を行う。

◇趣味の会に関する事項

〈目的〉シニア会員と現役メンバーが趣味の会を通じて、懇親を深める。
〈方法〉各趣味の会の監督・キャプテンと調整をはかり、各会の運営補助・サポートを行う。

◇60周年実行委員会に関する事項

〈目的〉福岡JCの60周年を盛大にお祝いすること。
〈方法〉60周年実行委員会と連携を図り、各委員会の担当業務を遂行する。

◇こども会議に関する事項

〈目的〉こども会議25周年事業を通して、福岡JCの歴史や事業の意義を理解すること。
〈方法〉こども会議関係室と連携を図り、各委員会の担当業務を遂行する。

◇会員拡大に関する事項

〈目的〉社会の原点は人であり、人の原動力は、心から信頼しあえる仲間存在にほかなりません。団塊ジュニア世代の卒業が近づくといった会員減少の危機感をもち、これからもダイナミックな活動を、より多くのメンバーと展開するために会員拡大を行います。
〈方法〉全正会員が拡大活動を常に心がけ、定期的に理事会構成メンバーで拡大推進会議を行う。それらの集約した情報を拡大委員会で取り纏め、新入会の促進を行う。

委員長 鈴木大輔
副委員長 林田暁紀
総括幹事 青木栄憲
運営幹事 吉原弘剛
会計幹事 田代祐誠
広報幹事 高原正臣
安部正孝
大川陽子
調至崇史
西川明介
堀江克尚
松尾健太郎
目黒雄大
矢幡健治
吉村稔

委員会年間スケジュール

	上程スケジュール	行 事		上程スケジュール	行 事
2012年 11月		(釜山JC60周年記念式典)12日	6月		第2回「じゃがいもクラブ」開催 第2回「ぼうふら」開催 ファミレク
12月			7月		事業実施 (OBとの交流を通じた指導力向上に関する事業) サマコン (横浜) 20日-21日 こども会議
2013年 1月	□討議□協議□審議 (ぼうふら年会費改正計画)	新春例会 京都会議17日-20日	8月		入会審査 (後期)
2月		60周年記念式典 近出 シニア総会	9月	□討議□審議□協議□審議 (OBとの交流を通じた指導力向上に関する事業報告)	第3回「じゃがいもクラブ」開催 第3回「ぼうふら」開催
3月	□討議□協議□協議□協議 (OBとの交流を通じた指導力向上に関する事業計画)	60周年記念事業 第3エリア合同例会(福岡) 第1回「じゃがいもクラブ」開催 第1回「ぼうふら」開催	10月		全国大会(奈良)3日-6日 やすらぎ荘 JCキャンプ
4月	□討議□協議□協議□協議 (OBとの交流を通じた指導力向上に関する事業計画)	入会審査(中期) APCCチャリティゴルフ	11月		世界会議(リオデジャネイロ)5日-10日
5月	□討議□審議□協議□審議 (OBとの交流を通じた指導力向上に関する事業計画)	広島定期交歓会(福岡) ASPAC(韓国光州)22日-25日	12月		第4回「じゃがいもクラブ」開催 第4回「ぼうふら」開催 入会審査(前期) 送る夕べ



■委員長スローガン

『志高く』

●基本方針

福岡JCは「明るい豊かな社会」の実現を目指して、先輩方が60年間にわたり築いてきた歴史があります。60周年の節目を迎え、この組織がさらに発展するためには「創始の精神」にたちかえり、福岡JCの目的や意義、活動の魅力をより効果的、戦略的に発信し、多くの市民の方に賛同してもらうことが必要です。

そこで広報委員会では、福岡JCの活動や事業に共感をもつファンを一人でも多く増やすために、地元企業や地域メディア、諸団体等と積極的に連携していくことで、福岡JCに関心を持っていただくきっかけをつくります。そして広報活動の新たな可能性を模索し、効果的な手段を検討します。そこには、私たちが取り組む事業だけでなく、多くの市民に受け入れられるような魅力的な発信を考えています。

広報委員会は、脈々と引き継がれてきた福岡JCの伝統を大切に、誇りと気概とユーモアを持って活動して参ります。そして、全メンバーが同じ目的を共有し、各人が自らの役割を全うすることでチームワークを醸成し、より強固な組織力を築いていく所存です。

●事業計画

◇LOM活動の記録と対外への情報発信

〈目的〉福岡JCの事業をはじめとする各種情報を広くPRし、市民への認知とブランディング向上を図る。また、メンバー間の情報共有のできる機会とする。

〈方法〉①LOMホームページの運営管理

既存ホームページをベースとして更に機能的に有効活用できるようブラッシュアップする。また、対外の皆様にも広く福岡JCを理解・共感頂ける内容にする。取材に関しても積極的にを行い、速やかに情報発信する。

②情報誌の検証及び発行について

これからの広報活動をより有効なものにしていく為、今までの広報活動（情報誌等）の検証を行い、それを基に福岡JCの広報戦略の在り方について検討を行う。

③マスメディア・プレスリリースの実施

関係委員会と連携して、効果的な発信に努める。

◇褒賞申請の作成

〈目的〉福岡JCの事業を他LOMに広くPRする為、褒賞受賞を目指す。

〈方法〉前年度受賞した事業等、調査研究し、完成度の高い褒賞申請を行う。

◇60周年実行委員会に関する事項

〈目的〉福岡JCの60周年を盛大にお祝いすること。

〈方法〉60周年実行委員会と連携を図り、各委員会の担当業務を遂行する。

◇こども会議に関する事項

〈目的〉こども会議60周年事業を通して、福岡JCの歴史や事業の意義を理解すること。

〈方法〉こども会議関係室と連携を図り、各委員会の担当業務を遂行する。

◇会員拡大に関する事項

〈目的〉社会の原点は人であり、人の原動力は、心から信頼しあえる仲間存在にほかなりません。団塊ジュニア世代の卒業が近づくといった会員減少の危機感をもち、これからもダイナミックな活動を、より多くのメンバーと展開するために会員拡大を行います。

〈方法〉全正会員が拡大活動を常に心がけ、定期的に理事会構成メンバーで拡大推進会議を行う。それらの集約した情報を拡大委員会で取り纏め、新入会の促進を行う。

委員長 瀬口 正
副委員長 池松 慶太郎
総括幹事 佐々木 誠二
運営幹事 山田 邦彦
会計幹事 田中 恵介
広報幹事 安藤 功
五十嵐 亮
箴島 貴宏
高山 秀明
知名 健太郎
定信 樹
堤 認
富永 周行
野田 孝一
平木 康裕
向原 栄太郎
渡辺 洋祐

委員会年間スケジュール

	上程スケジュール	行 事		上程スケジュール	行 事
2012年 11月		(釜山JC60周年記念式典)12日	6月	□討議□審議□協議□審議 (広報戦略計画)	福岡経済発行・ホームページの更新 ファミレク
12月	□討議□協議 (2013ホームページ事業計画)		7月		福岡経済発行・ホームページの更新 サマコン(横浜)20日-21日 こども会議
2013年 1月	□討議□審議 (2013ホームページ事業計画)	福岡経済発行・ホームページの更新 京都会議17日-20日	8月		褒賞申請(全国大会) 福岡経済発行・ホームページの更新 入会審査(後期)
2月		60周年記念式典 福岡経済発行・ホームページの更新 近出	9月		福岡経済発行・ホームページの更新
3月		60周年記念事業 福岡経済発行・ホームページの更新 第3エリア合同例会(福岡)	10月		褒賞申請(ブロック)、広報誌発行 福岡経済発行・ホームページの更新 全国大会(奈良)3日-6日 やすらぎ荘JCキャンプ
4月	□討議□協議□協議□協議 (広報戦略計画)	福岡経済発行・ホームページの更新 入会審査(中期) APCCチャリティゴルフ	11月	□討議□審議□協議□審議 (広報戦略報告)	福岡経済発行・ホームページの更新 世界会議(リオデジャネイロ)5日-10日
5月	□討議□協議□協議□協議 (広報戦略計画)	福岡経済発行・ホームページの更新 広島定期交歓会(福岡) ASPAC(韓国光州)22日-25日	12月	□討議□審議 (2013ホームページ事業報告)	福岡経済発行・ホームページの更新 入会審査(前期) 送るタバ



室 長 井 上 誉 之

●基本方針

過去5年間の福岡JC卒業生数の平均者数は約37名です。2013年度以降の3年間では、毎年50名以上もの卒業生数を予定しています。そのような傾向もあり、近年の会員減少に関する危機感は誰しもが感じている事だと思えます。このすばらしい福岡JCを発展存続させていく為には、LOM全体で会員拡大の為に多様な取り組みを行っていかねばならないと考えます。過去からの多くの経験と実績、そして、メンバー、特別会員、また出向先や外部団体あらゆる連携を図れる福岡JCの土台を学び、自由な発想と大胆な仮説を立てて、情熱を持って福岡JCの会員拡大の為に行動を起こしてまいります。

また、大きな志を持って福岡JCの扉を叩いた新しい仲間、「明るい豊かな社会の実現」という理念や「修練・奉仕・友情」というJCの三信条を伝え、多くの仲間や人生の師との出会いがあり、同じ目標に向け支えあい、共に苦難を乗り越えていくことで、自己成長ができ、かけがえのない仲間作りができるJCを学びまた体感頂き、その機会を自らが積極的に掴み取りにいけるメンバーとなるよう研修を行ってまいります。

60年間脈々と受け継がれてきた福岡JCのDNA。熱い情熱と高い志を持って、若者らしく、リスクを恐れない行動力で、私たちの愛する福岡の為に行動を行い、さらなる成長と友情を深めてきた福岡JCのDNA。このDNAを発展存続していく為にも、メンバー各自が自ら行動を起こし、1年間を通して一生の仲間作りと感動を体感できるよう拡大・研修活動に取り組んでまいります。

研 修 委 員 会



■委員長スローガン

『自己啓発、常にチャレンジの精神で』

●基本方針

JCは「修練・奉仕・友情」を三信条として「明るい豊かな社会」を目指して活動を展開しています。その中で今後の世代を担う若者達が福岡JCの門をくぐる事により、今まで先輩から受け継がれてきた伝統を理解して頂き、多くの仲間、人生の師との出会い、同じ目標に向け支え合い、共に苦難を乗り越え、自己成長し、一生共に過ごせる仲間作りができる研修を行ってまいります。また常に仮入会者に様々な機会を与え、特別会員、メンバー、との交流を図って参ります。

今後の福岡を担う若者を育成するにあたり、私自身がもう一度自己を見つめ直し、青年経済人として、一人の人間として、もう一度初心に返りしっかりと襟を正し、礼儀・礼節・気配り・感謝の気持ちを以って研修委員会メンバー全員で学び、仮入会者に見本となる研修をして参ります。その中で研修委員会メンバー全員が共に行動をする事により、共に苦楽を味わい、共に成長し、共に学び、共に過ごす事により一生付き合える仲間となるはずで

この御縁を大事にし、積極的に行動し、多くの機会や共有を生み出す活動を行ってまいります。

●事業計画

◇仮入会者への指導・研修に関する事項

〈目的〉60周年に向け福岡JCの活動を理解して頂き、今後の福岡JCの礎を築けるよう指導・研修を行なうこと。

〈方法〉規律・礼節・気配り・感謝等、自己啓発を重んじた研修を行なう。

◇新入会者同期会事業に関する事項

〈目的〉新入会者同期会の友情と結束を深めながら事業運営システムを理解してもらうこと。

〈方法〉入会1年を経過したメンバーに対する祝福と慰労を目的とした「ところてん事業」の企画や運営を、研修委員会指導の下、新入会員同期会で

◇やすらぎ荘JCキャンプの企画・実施

〈目的〉やすらぎ荘事業を通して、3同期会を中心に福祉やボランティアの大切さを学び自己修練の場となること。

〈方法〉九州大学、やすらぎ荘の意見を踏まえながら、街頭募金やキャンプ事業の企画、運営を行なう。

◇60周年実行委員会に関する事項

〈目的〉福岡JCの60周年を盛大にお祝いすること。

〈方法〉60周年実行委員会と連携を図り、各委員会の担当業務を遂行する。

◇こども会議に関する事項

〈目的〉こども会議25周年事業を通して、福岡JCの歴史や事業の意義を理解すること。

〈方法〉こども会議関係者と連携を図り、各委員会の担当業務を遂行する。

◇会員拡大に関する事項

〈目的〉社会の原点は人であり、人の原動力は、心から信頼しあえる仲間存在にほかなりません。団塊ジュニア世代の卒業が近づくとといった会員減少の危機感をもち、これからもダイナミックな活動を、より多くのメンバーと展開するために会員拡大を行なう。

〈方法〉全正会員が拡大活動を常に心がけ、定期的に理事会構成メンバーで拡大推進会議を行う。それらの集約した情報を拡大委員会で取り纏め、新入会の促進を行う。

委員長 岩元 智彦
副委員長 才田 洋輔
総括幹事 徳永 竜太郎
運営幹事 夏山 孝司
会計幹事 津福 宣彰
広報幹事 中野 雄将
井村 仁志
岩瀬 達郎
桐生 浩之
菅原 大奈
高嶋 はる
鶴田 孝志
徳山 慶博
野中 長武
松尾 佳人
盛田 義隆

委員会年間スケジュール

	上程スケジュール	行 事		上程スケジュール	行 事
2012年 11月		(釜山JC60周年記念式典)12日	6月		事業実施(ところてん事業) 中期オリエンテーション② ファミレク
12月	□討議□協議 (前期仮入会オリエンテーション事業計画)	入会審査(前期)7日 送る夕べ	7月	□討議□審議 (後期オリエンテーション事業計画) □討議□討議□討議□討議 (ところてん事業報告:前期仮入会)	中期オリエンテーション③ 居酒屋の青春 サマコン(横浜)20日-21日 こども会議
2013年 1月	□討議□審議 (前期仮入会オリエンテーション事業計画) □討議□討議□討議□討議 (ところてん事業計画:後期仮入会)	前期オリエンテーション① 京都会議17日-20日	8月	□討議□審議 (中期仮入会オリエンテーション事業報告) □討議□審議□討議□討議 (やすらぎ荘JCキャンプ事業計画)	入会審査(後期)
2月		事業実施(ところてん事業) 前期オリエンテーション② 60周年記念式典	9月	□討議□討議□討議□討議 (ところてん事業計画:中期仮入会)	後期仮入会オリエンテーション① やすらぎ荘街頭募金
3月		60周年記念事業 前期仮入会オリエンテーション③ 居酒屋の青春 第3エリア合同例会(福岡)	10月		事業実施(ところてん事業) 事業実施(やすらぎ荘JCキャンプ) 後期仮入会オリエンテーション② 全国大会(奈良)3日-5日 やすらぎ荘JCキャンプ
4月	□討議□審議 (中期仮入会オリエンテーション事業計画) □討議□討議□討議□討議 (ところてん事業報告:後期仮入会)	入会審査(中期) APCCチャリティゴルフ	11月	□討議□討議□討議□討議 (ところてん事業報告:中期仮入会)	後期仮入会オリエンテーション③ 居酒屋の青春 世界会議(リオデジャネイロ)5日-10日
5月	□討議□討議□討議□討議 (ところてん事業計画:前期仮入会)	中期オリエンテーション① 広島定期交歓会(福岡) ASPC(韓国光州)22日-25日	12月	□討議□審議 (後期仮入会オリエンテーション事業報告) □討議□審議□討議□討議 (やすらぎ荘JCキャンプ事業報告)	入会審査(前期) 送る夕べ

拡 大 委 員 会



■委員長スローガン

『愛し、愛され。・・・拡大とはJCの原点である・・・』

●基本方針

拡大とは、福岡JCの原点です。
1953年2月4日戦後の経済復興を目指して、福岡の明るい未来を実現するために同じ志を持つ50人の青年が立ち上がってから始まった、福岡JC。

今まで60年間我々の先輩方がこの愛する福岡のために注がれてきた熱い情熱と、高い志を再度LOMメンバー全員に伝え、会員減少の一途をたどっている危機感と、拡大の重要性を再確認してもらおう。

人は、愛さなければ、人から愛されることはありません。まずは我々がこの福岡JCを本当に愛すること、この福岡のまちを本当に愛さなければ、このまちの人から愛される団体には成れません。

今年は創立60周年を迎え大きな事業をLOMとして行います。LOM全体が先輩方と触れ合う機会もさらに多くなります。このチャンスを生かし、委員会として積極的に先輩とふれあい、委員会メンバーには、福岡JCの魅力をその触れ合いから感じてもらいます。高い志を持つ、まだ見ぬ同志を増やすためにはどうすれば良いのか、どのような団体でなければならないかを委員会メンバー全員は勿論LOM全体巻き込み真剣に考え、行動することから生まれる感動と友情をメンバー全員と共有できる委員会運営を行います。

●事業計画

◇会員拡大の推進

〈目的〉福岡JCの発展と普及。

〈方法〉LOMメンバー全員に拡大の必要性を具体的に伝え、拡大活動がLOMにとって最重要課題であることを認識して頂く。拡大活動の全体的サポートを行う。

- ・拡大ツールを活用し、候補者に福岡JCについて説明する。
- ・理事会構成メンバーでの拡大会議の情報を集約し、有効的なアプローチを行う。
- ・LOMメンバーへの会員拡大運動の推進とサポート活動。
- ・60周年実行委員会と連携し、シアクラブ及び卒業予定者等との連携を図った会員拡大運動の促進。
- ・全国で素晴らしい実績を上げているLOMの情報も集約、連携し会員拡大促進を図る。

◇10月講師公開例会の実施

〈目的〉JCが成し得た実績や功績を市民に広く理解、認知していただき、会員拡大への機運を高める例会を開催する。

〈方法〉入会候補者にも広く参加して頂き、JC活動の一端を見て頂くことで会員拡大につなげる。

◇拡大推進会議の設営

〈目的〉LOM全体で会員拡大を行う。

〈方法〉理事会後、理事会構成メンバーでの拡大会議を実施し、会員拡大の為の多様な取り組みをLOM全体で行う。

◇トリオJCに関する事項

〈目的〉釜山JC、下関JCとの友好的交流を育む。

〈方法〉双方の60周年事業に参加し、トリオ会議の交流内容・方向性について議論し、お互いの理解と親睦を深める。またそれぞれの開催地での懇親会の設営及びメンバーへの参加の促進を行います。

◇60周年実行委員会に関する事項

〈目的〉福岡JCの60周年を盛大にお祝いすること。

〈方法〉60周年実行委員会と連携を図り、各委員会の担当業務を遂行する。

◇こども会議に関する事項

〈目的〉こども会議25周年事業を通して、福岡JCの歴史や事業の意義を理解すること。

〈方法〉こども会議関係室と連携を図り、各委員会の担当業務を遂行する。

◇会員拡大に関する事項

〈目的〉社会の原点は人であり、人の原動力は、心から信頼しあえる仲間存在にほかなりません。団塊ジュニア世代の卒業が近づくといった会員減少の危機感を持ち、これからもダイナミックな活動を、より多くのメンバーと展開するために会員拡大を行います。>社会の原点は人であり、人の原動力は、心から信頼しあえる仲間存在にほかなりません。団塊ジュニア世代の卒業が近づくといった会員減少の危機感を持ち、これからもダイナミックな活動を、より多くのメンバーと展開するために会員拡大を行います。

〈方法〉全正会員が拡大活動を常に心がけ、定期的に理事会構成メンバーで拡大推進会議を行う。それらの集約した情報を拡大委員会で取り纏め、新入会の促進を行う。

委員長 深野 継介
副委員長 占部 歓久
総括幹事 宮崎 敬嗣
運営幹事 堀江 陽一
会計幹事 税所 政博
広報幹事 大久保 祥二
今崎 晋一郎
岡部 英信
上村 聡
桐山 栄治
田中 慎介
福島 卓隆
襖田 匡文
二村 英幸
村山 幸範
山崎 尚典

委員会年間スケジュール

	上程スケジュール	行 事		上程スケジュール	行 事
2012年					
11月		(釜山JC60周年記念式典)12日	6月		第六回拡大推進会議 トリオ会議(下関) ファミレク
12月			7月	□討議□協議 (10月度公開例会事業計画)	第七回拡大推進会議 サマコン(横浜)20日-21日 こども会議
2013年					
1月		第一回拡大推進会議 京都会議17日-20日	8月	□討議□審議 (10月度公開例会事業計画)	第八回拡大推進会議 入会審査(後期)
2月		60周年記念式典 第二回拡大推進会議 近出	9月		
3月		60周年記念事業 第三回拡大推進会議 第3エリア合同例会(福岡)	10月		第九回拡大推進会議 10月度公開例会 全国大会(奈良)3日-6日 やすらぎ社JCキャンプ
4月		第四回拡大推進会議 入会審査(中期) APCCチャリティゴルフ	11月		第十回拡大推進会議 世界会議(リオデジャネイロ)5日-10日
5月		第五回拡大推進会議 広島定期交歓会(福岡) ASPAC(韓国光州)22日-25日	12月	□討議□審議 (10月度公開例会事業報告)	入会審査(前期) 送る夕べ



室 長 阿 部 剛 士

●基本方針

福岡のまちをより豊かなものにするためには、過去を見据え、現状を分析し、これからの福岡のことを創造する必要があります。

幸いにも、福岡JCには過去からの多くの経験と実績、外部団体との連携という財産が受け継がれています。地域発信室では、その財産を見据え、これからの福岡の為に何をしなければならないかをしっかりと調査研究したうえで、創造し、失敗を恐れず、FUKUOKAの素晴らしい魅力を発信する事業を実施致します。

これまで福岡JCの事業として受け継がれてきたNAKASU JAZZやこども会議チャリティーゴルフの運営などにおいても、これまでの関わりだけでなく、過去を検証し、より効果的な関わりがもてるように致します。また、2月、5月、7月例会では、各委員会が行う事業を踏まえた例会を実施します。

福岡の宝 活性化推進委員会



■委員長スローガン

『可能性に挑戦、大いなる夢と誇りを持って』
～その先にある新たな自分に出会うために～

●基本方針

外から見た福岡のまちのイメージは、「食文化」が全国的であります。まち並みを見れば個性あふれる店が建ち並び、ファッションなまち、博多織や博多人形などの伝統文化、日本でのうどん・そば発祥の寺、承天寺、黒田藩が築城した福岡城を筆頭とする史跡・神社仏閣、スポーツでは市民球団となった福岡ソフトバンクホークス、アビスパ福岡、市街地に近い地理的な特性のある海や山などの自然環境、など魅力といえれば多種多様に存在します。

しかしながら、福岡にはこのように様々なまちの魅力が多く存在しているものの、本当に福岡の魅力(宝)を市民は享受していますでしょうか、国内外の方への誘客に活用できていますでしょうか。国際都市を目指す福岡市にとって、今後も発展し続けるためには、福岡が活力と魅力に溢れた存在感ある都市として市民はもちろぬこと、国内外から注目される必要があります。

福岡の宝活性化推進委員会は、多くの方々に福岡の個性や魅力を認識していただき、継続的な福岡のファンになってもらえるような事業を行います。

福岡の宝には、未来に向けての可能性が十分に秘められています。この可能性に大いなる夢と誇りを持って果敢に挑戦して参ります。その先には福岡の明るい未来へと繋がり、また大きく成長した新たな自分へ出会えるものと確信します。1年間を通して一歩前へ率先して行動し、常に感謝の気持ちを持ち、一生涯の仲間を作れる委員会を目指し活動して参ります。

●事業計画

◇福岡の宝を使い地域活性化となる事業の実施

〈目的〉福岡の宝となるものを活かした事業を実施することにより、地域の活性化を推進する。

〈方法〉福岡の宝の重要性や可能性を広く発信し、地域活性化に貢献できる事業を実施する。

◇2月例会の実施

〈目的〉福岡の宝を再認識し、様々な活かし方により、更なる地域活性化に繋がることを発信する。

〈方法〉福岡の宝の魅力・可能性を考えるきっかけとなる例会を実施する。

◇福岡ブロック出向者に関する事項、及びブロック大会への参加促進

〈目的〉福岡ブロック出向者に関する事項のサポートと、福岡JCメンバーが福岡ブロックメンバーとの交流を深めるために福岡ブロック大会への参加促進を行う。

〈方法〉福岡ブロック出向者に関する情報共有を図りサポートを行う。例会・委員会訪問にてブロック大会の情報発信を行う。

◇60周年実行委員会に関する事項

〈目的〉福岡JCの60周年を盛大にお祝いすること。

〈方法〉60周年実行委員会と連携を図り、各委員会の担当業務を遂行する。

◇こども会議に関する事項

〈目的〉こども会議25周年事業を通して、福岡JCの歴史や事業の意義を理解すること。

〈方法〉こども会議関係者と連携を図り、各委員会の担当業務を遂行する。

◇会員拡大に関する事項

〈目的〉社会の原点は人であり、人の原動力は、心から信頼しあえる仲間の存在にほかなりません。団塊ジュニア世代の卒業が近づくといった会員減少の危機感をもち、これからもダイナミックな活動を、より多くのメンバーと展開するために会員拡大を行います。

〈方法〉全正会員が拡大活動を常に心がけ、定期的に理事会構成メンバーで拡大推進会議を行う。それらの集約した情報を拡大委員会で取り纏め、新入会の促進を行う。

委員長 秦 勝 良
副委員長 荻 田 英 二
総括幹事 原 田 良 二
運営幹事 森 崇 紀
会計幹事 武 本 尚 之
広報幹事 岡本 由 紀 子
飯 塚 輝 幸
岩本 壮 一 郎
大 穂 世 嗣 孝
川 原 雄 介
杉 田 悠 悠
岳 将 士 宝
立 部 光 宝
松 村 義 之
三 角 純 康
吉 村 友 佑

委員会年間スケジュール

	上程スケジュール	行 事		上程スケジュール	行 事
2012年					
11月		(釜山JC60周年記念式典)12日	6月	□討議□審議□協議□審議 (福岡の宝活性化推進事業計画)	ファミレク
12月	□討議□協議 (2月度例会事業計画)		7月		サマコン(横浜)20日-21日 こども会議
2013年					
1月	□討議□審議 (2月度例会事業計画)	京都会議17日-20日	8月		福岡の宝活性化推進事業実施 入会審査(後期)
2月		60周年記念式典 2月度例会実施 近出	9月		
3月		60周年記念事業 第3エリア合同例会(福岡)	10月	□討議□審議□協議□審議 (福岡の宝活性化推進事業報告)	全国大会(奈良)3日-6日 やすらぎ荘 JCキャンプ
4月	□討議□審議(2月度例会事業報告) □討議□協議□協議□協議(福岡の宝活性化推進事業計画)	入会審査(中期) APCCチャリティゴルフ	11月		世界会議(リオデジャネイロ)5日-10日
5月	□討議□協議□協議□協議 (福岡の宝活性化推進事業計画)	広島定期交歓会(福岡) ASPAC(韓国光州)22日-25日	12月		入会審査(前期) 送る夕べ

福岡の芸術文化発信委員会



■委員長スローガン

『先取の精神で芸術文化による新しいFUKUOKAを発信しよう』

●基本方針

福岡は太古の昔から我が国におけるアジアの玄関として大陸に開かれ、中国をはじめとした諸外国の文化に初めて触れる地でした。福岡の先人たちは、その先取の精神で新しい文化を受け入れるとともに、自らの文化として発展させ多様な文化を育んできました。その結果、現代の福岡には、博多祇園山笠やどんたくといった伝統的な文化から、デジタルアートなどの最先端の芸術まで、多種多様な芸術文化があふれ、多くの芸能人を輩出するなど、福岡のまちは、高い芸術性・文化性が市民の精神に流れる地域となりました。そのため、市民の中にあふれる芸術性・文化性を生かしたまちづくりを行うことは福岡のまちにとって、いわば必然であって、当委員会は、福岡JCが2013年度まで不断の努力で築き上げてきたエンターテインメントシティの概念を受け継いで、新旧の福岡の芸術文化を融合した新しいFUKUOKAの芸術文化の魅力を発信します。また、芸術文化の側面からFUKUOKAの魅力を発信する事業を通じて、個々のメンバーも福岡の魅力や改善点を認識し、よりよりFUKUOKAのまちを目指すことにより、一人ひとりが「まちづくりができるひと」となるよう共に成長していきます。

●事業計画

- ◇芸術文化から、福岡を活性化させる事業の実施
 - 〈目的〉福岡には長い歴史の中で育まれた多様な文化があり、さらに、この歴史を背景とした新しい芸術文化も芽生え始めています。福岡のまちがエンターテインメントシティとしての魅力を継続して発信し続けるために、新旧の芸術文化を融合した新しいFUKUOKAの芸術文化を発信します。
 - 〈方法〉福岡における多様な芸術文化を発信するため、FUKUOKAのまちに伝統文化だけでなく、最先端の芸術文化を紹介するスペースを多数設けることにより、エンターテインメントシティの一翼を実現します。
- ◇5月例会の実施
 - 〈目的〉福岡の芸術文化を発信するためには、福岡、日本、アジア、さらには、世界の芸術文化を理解し、世界の中のFUKUOKAを意識しなければなりません。そのために、日本、アジア、世界の芸術文化をリードする講師を招へいし、FUKUOKAの誇るべき芸術文化の未来を創造します。
 - 〈方法〉日本、アジア、世界の芸術文化の現状に詳しい講師に福岡の芸術文化を理解していただいた上で、公開例会の場でFUKUOKAの芸術文化に関する講演を行っていただく。
- ◇ASPACへの参加促進、及びLOMナイト実施
 - 〈目的〉2013年度韓国光州(クアンジュ)で行われるASPACはアジア・太平洋エリアのJCの仲間との交流を深める大きなチャンスです。そのために、多くのメンバーに大会期間中のファンクションに積極的に参加していただくとともに、LOMナイトを実施し、民間外交の担い手としての役割を果たします。
 - 〈方法〉各委員会訪問を行い、ASPACの内容をご案内するとともに、現地調査を始めとした綿密な計画を行いLOMナイトを実施する。
- ◇NAKASU JAZZへの支援とりまとめに関する事項
 - 〈目的〉福岡JCが中心となり2009年にスタートしたNAKASU JAZZは、福岡のまちに根差した地域に欠かせない事業に発展しています。このFUKUOKAのまちの芸術文化に大きく貢献する事業が円滑に行われるように福岡青年会議所メンバーに支援を要請します。
 - 〈方法〉NAKASU JAZZ実行委員会と連携を図り、各委員会への支援依頼のとりまとめを行う。
- ◇60周年実行委員会に関する事項
 - 〈目的〉福岡JCの60周年を盛大にお祝いすること。
 - 〈方法〉60周年実行委員会と連携を図り、各委員会の担当業務を遂行する。
- ◇こども会議に関する事項
 - 〈目的〉こども会議25周年事業を通して、福岡JCの歴史や事業の意義を理解すること。
 - 〈方法〉こども会議関係室と連携を図り、各委員会の担当業務を遂行する。
- ◇会員拡大に関する事項
 - 〈目的〉社会の原点は人であり、人の原動力は、心から信頼しあえる仲間の存在にほかなりません。団塊ジュニア世代の卒業が近づくといった会員減少の危機感をもち、これからもダイナミックな活動を、より多くのメンバーと展開するために会員拡大を行います。
 - 〈方法〉全正会員が拡大活動を常に心がけ、定期的に理事会構成メンバーで拡大推進会議を行う。それらの集約した情報を拡大委員会で取り纏め、新入会の促進を行う。

委員長 柴田 耕太郎
副委員長 関 一 優
総括幹事 境 和 明
運営幹事 中 島 健 作
会計幹事 藤 塚 勉
広報幹事 百田 善太郎
飯 盛 利 康
今 永 尚 宏
入 江 幸 治
大 野 哲 一
川 端 伸 二
坂 野 純 一
白 石 三 樹
橋 本 久 志
藤 井 洋 介
吉 田 善 太 郎

委員会年間スケジュール

	上程スケジュール	行 事		上程スケジュール	行 事
2012年					
11月		(釜山JC60周年記念式典)12日	6月		事業実施(福岡の芸術文化発信事業)ファミレク
12月			7月	□討議□審議(公開例会事業報告)	サマコン(横浜)20日-21日 こども会議
2013年					
1月		京都会議17日-20日	8月	□討議□審議□協議□審議(福岡の芸術文化発信事業報告)	NAKASU JAZZ支援事業 入会審査(後期)
2月	□討議□協議□協議□協議(福岡の芸術文化発信事業計画) □討議□協議(5月度公開例会事業計画)	60周年記念式典 近出	9月		
3月	□討議□協議□協議□協議(福岡の芸術文化発信事業計画) □討議□審議(5月度公開例会事業計画)	60周年記念事業 第3エリア合同例会(福岡)	10月		全国大会(奈良)3日-6日 やすらぎ荘 JCキャンパ
4月	□討議□審議□協議□審議(福岡の芸術文化発信事業計画)	入会審査(中期) APCCチャリティゴルフ	11月		世界会議(リオデジャネイロ)5日-10日
5月		事業実施(5月度公開例会事業) 広島定期交歓会(福岡) ASPAC参加促進・LOMナイト ASPAC(韓国光州)22日-25日	12月		入会審査(前期) 送る夕べ

FUKUOKA MARATHON委員会



■委員長スローガン

『エンターテイメントシティ創造に向けて
FUKUOKA MARATHONを実現させよう!!』

●基本方針

近年、健康志向の上昇も手伝い、ブームになっていると言えるマラソン。この『マラソン』と『まちの活性化』はとてもリンクしやすい関係にあると言えるのではないでしょうか？ベルリンやホノルル、東京など、マラソンを通じて人が集い、まちが賑わう・・・そういった沢山の素晴らしいモデルケースと同じように、我々の大好きなFUKUOKAでも、我々が目指すエンターテイメントシティのビッグイベントのひとつとして、アジアに誇るFUKUOKA MARATHONを実現できるように尽力し、MARATHONという観点から魅力と活力の溢れるまちFUKUOKAの創造を目指し、私共の出来ることは何かをしっかりと考え、実践して参ります。また、事業を通して、委員会メンバー一丸となり、積極的に取り組むことで、メンバー同士の絆を深め、これからの未来永劫ずっと繋がっていきけるような素晴らしい仲間を作って参ります。

MARATHONを通じて、素晴らしいまちと素晴らしい仲間を得るべく、突き進んでいきましょう!!

●事業計画

- ◇FUKUOKA MARATHONに関する事項
 - 〈目的〉アジアに誇るFUKUOKA MARATHONを実現させ、エンターテイメントシティFUKUOKAとして魅力と活力に溢れるまちづくりを目指す。
 - 〈方法〉マラソンに関する事業を実施し、行政などに働きかけることにより、本年度中の開催、もしくは開催決定に導く。
- ◇こども会議チャリティゴルフの運営・設営
 - 〈目的〉こども会議の運営支援及び幅広い交流の場とすること。
 - 〈方法〉過去のAPCCチャリティゴルフを参考にして、APCCと連携し、円滑な設営、運営を行う。
- ◇7月度例会の実施
 - 〈目的〉マラソンの素晴らしさだけでなく、市民マラソンを実施することによる波及効果など、福岡になぜマラソンが必要なのかを発信していく。
 - 〈方法〉マラソンに関わってきただけでなく、それに伴うまちづくりの観点でも我々と意識を共有でき、発信力のある方を講師に招き、市民参加型マラソンの楽しさと必要性を伝えてもらう。
- ◇60周年実行委員会に関する事項
 - 〈目的〉福岡JCの60周年を盛大にお祝いすること。
 - 〈方法〉60周年実行委員会と連携を図り、各委員会の担当業務を遂行する。
- ◇こども会議に関する事項
 - 〈目的〉こども会議25周年事業を通して、福岡JCの歴史や事業の意義を理解すること。
 - 〈方法〉こども会議関係室と連携を図り、各委員会の担当業務を遂行する。
- ◇会員拡大に関する事項
 - 〈目的〉社会の原点は人であり、人の原動力は、心から信頼しあえる仲間の存在にほかなりません。団塊ジュニア世代の卒業が近づくといった会員減少の危機感をもち、これからもダイナミックな活動を、より多くのメンバーと展開するために会員拡大を行います。
 - 〈方法〉全正会員が拡大活動を常に心がけ、定期的に理事会構成メンバーで拡大推進会議を行う。それらの集約した情報を拡大委員会で取り纏め、新入会の促進を行う。

委員長 山下 雅之
副委員長 河村 英男
総括幹事 春山 隆央
運営幹事 長友 睦宏
会計幹事 金城 貴雄
広報幹事 内野 千夏
(出向理事) 野田 大吾郎
青木 曆昌
石川 貴浩
浦田 純二
小津和 敦
布巻 信吾
野田 始郎
林田 太郎
藤林 秀基
村津 万里

委員会年間スケジュール

	上程スケジュール	行 事		上程スケジュール	行 事
2012年 11月		(釜山JC60周年記念式典)12日	6月	□討議□審議(7月度例会事業計画) □討議□討議□討議□討議(APCCチャリティゴルフ事業報告) □討議□協議□協議□協議(マラソン関連事業計画)	ファミレク
12月			7月	□討議□協議□協議□協議(マラソン関連事業計画)	事業実施(7月度例会) サマコン(横浜)20日-21日 こども会議
2013年 1月		京都会議17日-20日	8月	□討議□審議□協議□審議 (マラソン関連事業計画)	入会審査(後期)
2月		60周年記念式典 近出	9月	□討議□審議 (7月度例会事業報告)	
3月	□討議□討議□討議□討議 (APCCチャリティゴルフ事業計画)	60周年記念事業 第3エリア合同例会(福岡)	10月		全国大会(奈良)3日-6日 やすらぎ荘JCキャンプ
4月		事業実施(APCCチャリティゴルフ) 入会審査(中期) APCCチャリティゴルフ	11月		事業実施(マラソン関連事業) 世界会議(リオデジャネイロ)5日-10日
5月	□討議□協議(7月度例会事業計画)	広島定期交歓会(福岡) ASPAC(韓国光州)22日-25日	12月	□討議□審議□協議□審議 (マラソン関連事業報告)	入会審査(前期) 送る夕べ



室 長 真 木 智 也

●基本方針

私たちの室に与えられた使命は、その名の通り『社会を開発すること』です。

そもそも社会は、個々の家庭や会社の集合体であり、家庭も会社も地域社会から独立して存在しているわけではありません。自らが愛する人達を“HAPPY”にするためには、地域社会をひいては社会全体が活性化するように開発していく必要があります。

地域社会の問題を山積みしながら社会全体が混沌としている今日。ポピュリズム全盛の昨今において諸問題に対して沈黙しては、活性化どころか何も開発することができません。今、私たち青年が生き活きと失敗を恐れずに情熱を持って行動することこそ、福岡の活性化につながるのだと信じています。

「社会開発室」では、私たちが住むこの愛する福岡の現状を知り、そして真剣に福岡のあるべき未来に向き合うことから始めてまいります。そして、地域の円滑化を図るために、社会開発への意識を市民の皆様と共に学び考えることで、明るい豊かな未来へとつなげていく事業を展開してまいります。

地 域 円 滑 化 委 員 会



■委員長スローガン

『一燈照隅』

●基本方針

福岡JCは、戦後間もなく経済復興を目指し50人の若者が、福岡の明るい未来を実現するべく創立され、今年で61年目を迎えます。

これまでに、福岡JCの先輩方から脈々と受け継がれてきた「創始の精神・情熱と高い志・創造力と行動力・成長と友情」を福岡のまちへ貢献して参りました。

60周年という節目に、又混沌とした社会情勢の中、現在の福岡が抱える問題や、福岡で生活する人々が抱える問題を研究し、よりよい福岡の明るい未来実現の為、JCだからできる事業を行います。

委員会活動においては、一燈照隅をスローガンに委員会メンバー一人一人がそれぞれの立場で主役となれるよう又、メンバー全員が福岡JCを誇れるよう、それぞれに活躍の場を作り、メンバー全員で切磋琢磨し、充実した1年間になるよう、取り組んで参ります。

●事業計画

◇福岡の地域にある問題を調査・研究

〈目的〉福岡の地域の問題を調査・研究し、福岡の明るい未来実現を目的とする。

〈方法〉行政・市民・自治体等の意見を参考にし、福岡のまちが抱える問題をいかに解決できるか研究し、これからの福岡に必要なまちづくりに関する事業を実施する。

◇全国大会への参加促進、LOMナイト企画・実施

〈目的〉全国会員大会奈良大会に参加して頂く。卒業生を盛大にお祝すると同時にメンバーの懇親を深める。

〈方法〉全国会員大会の意義を理解して頂けるよう努める。又LOMナイトでは卒業生を含めた参加者全員が思い出に残る様な設営を行う。

◇60周年実行委員会に関する事項

〈目的〉福岡JCの60周年を盛大にお祝いすること。

〈方法〉60周年実行委員会と連携を図り、各委員会の担当業務を遂行する。

◇こども会議に関する事項

〈目的〉こども会議25周年事業を通して、福岡JCの歴史や事業の意義を理解すること。

〈方法〉こども会議関係室と連携を図り、各委員会の担当業務を遂行する。

◇会員拡大に関する事項

〈目的〉社会の原点は人であり、人の原動力は、心から信頼しあえる仲間存在にほかなりません。団塊ジュニア世代の卒業が近づくといった会員減少の危機感をもち、これからもダイナミックな活動を、より多くのメンバーと展開するために会員拡大を行います。

〈方法〉全正会員が拡大活動を常に心がけ、定期的に理事会構成メンバーで拡大推進会議を行う。それらの集約した情報を拡大委員会で取り纏め、新入会の促進を行う。

委員長 日高史貴
副委員長 塚本尊文
総括幹事 高橋俊輔
運営幹事 高山貴博
会計幹事 中園修治
広報幹事 藤本充洋
井口剛
泉巖
近藤大
最所靖典
堤善徳
水田まみ子
峯元秀爾
村上弘美
横山淳一
吉川英太郎

委員会年間スケジュール

	上程スケジュール	行 事		上程スケジュール	行 事
2012年					
11月		(釜山JC60周年記念式典)12日	6月	□討議□審議□協議□審議 (委員会事業計画)	ファミレク
12月			7月		サマコン(横浜)20日-21日 こども会議
2013年					
1月		京都会議17日-20日	8月		地域円滑化事業実施 入会審査(後期)
2月		60周年記念式典 近出	9月		
3月		60周年記念事業 第3エリア合同例会(福岡)	10月	□討議□審議□協議□審議 (委員会事業報告)	全国大会(奈良)3日-6日 やすらぎ荘 JCキャンプ
4月	□討議□協議□協議□協議 (委員会事業計画)	入会審査(中期) APCCチャリティゴルフ	11月		世界会議(リオデジャネイロ)5日-10日
5月	□討議□協議□協議□協議 (委員会事業計画)	広島定期交歓会(福岡) ASPAC(韓国光州)22日-25日	12月		入会審査(前期) 送る夕べ

福岡HAPPY創造委員会



■委員長スローガン

『愛する人、愛するまち、愛する仲間のために』

●基本方針

昨今の経済不況や社会保障等の問題が重圧となり、閉塞感や停滞感を感じ将来に夢や希望を抱けない若者が増えており、結果としてチャレンジ精神(前のめりな姿勢)の欠如を招いています。

「若者に夢と希望の光を与えたい」

これからの福岡を支える若い世代にやる気と勇気を与えるような事業をおこないたいと思います。

そして私たちの愛するまち福岡のために何が出来るのか、どうしたら福岡のまちはより活性化するか。委員会メンバーと共に真剣に考え、意見をぶつけ合い情熱をもって福岡のまちをイキイキとさせる活動を進めてまいります。

委員会メンバーの皆さん、愛する仲間のため、愛する福岡のため、そして愛する家族・将来の子どもたちのために思いやりをもって行動しましょう。そして、常に高い志をもってお互いに切磋琢磨し、成長しながら楽しいJC活動をおこなっていきましょう。

●事業計画

◇福岡の若者やまちの活性化に繋がる事業の実施

〈目的〉若者をHAPPYにする事業を実施することにより、地域の活力を生み出すことを目的とする。

〈方法〉若者や地域社会の調査、分析を行い、参加した全ての人に感動や夢を与えられる事業を行う。

◇世界会議への参加促進

〈目的〉ブラジル リオデジャネイロで開催される世界会議への参加を促し、世界会議ならではの様々なプログラムを体験してもらうこと。

〈方法〉委員会訪問を通じ、世界会議の重要性を発信し、メンバーへの参加促進を行う。

◇60周年実行委員会に関する事項

〈目的〉福岡JCの60周年を盛大にお祝いすること。

〈方法〉60周年実行委員会と連携を図り、各委員会の担当業務を遂行する。

◇こども会議に関する事項

〈目的〉こども会議25周年事業を通して、福岡JCの歴史や事業の意義を理解すること。

〈方法〉こども会議関係室と連携を図り、各委員会の担当業務を遂行する。

◇会員拡大に関する事項

〈目的〉社会の原点は人であり、人の原動力は、心から信頼しあえる仲間存在にほかなりません。団塊ジュニア世代の卒業が近づくといった会員減少の危機感をもち、これからもダイナミックな活動を、より多くのメンバーと展開するために会員拡大を行います。

〈方法〉全正会員が拡大活動を常に心がけ、定期的に理事会構成メンバーで拡大推進会議を行う。それらの集約した情報を拡大委員会で取り纏め、新入会の促進を行う。

委員長 田島 敬悟
副委員長 熊本 太郎
総括幹事 戸田 三喜郎
運営幹事 三橋 更太郎
会計幹事 松岡 将史
広報幹事 古市 剛
後藤 義和
三枝 篤史
末松 崇
年岡 裕也
永野 泰吾
野中 勇
村岡 祐輔
安永 拓一郎
吉井 大記
吉永 拓哉

委員会年間スケジュール

	上程スケジュール	行 事		上程スケジュール	行 事
2012年					
11月		(釜山JC60周年記念式典)12日	6月	□討議□審議□協議□審議 (福岡HAPPY事業計画議案)	ファミレク
12月			7月		サマコン(横浜)20日-21日 こども会議
2013年					
1月		京都会議17日-20日	8月		入会審査(後期)
2月		60周年記念式典 近出	9月		
3月		60周年記念事業 第3エリア合同例会(福岡)	10月		福岡HAPPY事業実施 全国大会(奈良)3日-6日 やすらぎ荘JCキャンプ
4月	□討議□協議□協議□協議 (福岡HAPPY事業計画議案)	入会審査(中期) APCCチャリティゴルフ	11月		世界会議(リオデジャネイロ)5日-10日
5月	□討議□協議□協議□協議 (福岡HAPPY事業計画議案)	広島定期交歓会(福岡) ASPAC(韓国光州)22日-25日	12月	□討議□審議□協議□審議 (福岡HAPPY事業報告議案)	入会審査(前期) 送る夕べ



室 長 野 中 史 晃

●基本方針

本年、福岡JCでは60周年という節目の年を迎えます。

この60年という長い歴史に幾度となく、世代を超えて受け継がれてきた伝統や想い、そして偉業ともいえる事業等、これら福岡JCのDNAを次の世代へと伝承していく事が重要だと考えます。そして、基本は大事にしつつも、積極的にリスクを恐れず常に新しい夢にチャレンジする団体でありたいと思います。

例会委員会では月に1回全メンバーが理事長主催のもと一同に会する事の意義を掘り下げて考察し、集う事の意味を発信しつづけます。委員会の枠を超え互いの活動を認識し合う事でメンバーのモチベーションが上がることはもちろんのこと、メンバーが例会の重要性を認識し、積極的に出席したいと思えるような、凛とした緊張感のある中にも新しさや楽しさのある例会を企画運営して参ります。

総務財政委員会では、総会、理事会、常任理事会の円滑運営を行います。また、上程議案の期日、時間の徹底や厳正な予算審議等含め会員からの貴重な会費を取り扱う委員会として、各委員会の事業に適正に使用されているのかを厳格に審査し指導致します。LOMの要となる委員会ですので、しっかり各委員会と連携しながら協力していきます。

両委員会は福岡JCの屋台骨ですので、まずは我々が襟をただし、ルール徹底を図っていきたいと思います。そして、「情熱と感謝」を忘れず総務室一枚岩で一年間行動して参ります。

例 会 委 員 会



■委員長スローガン

『共に挑戦、共に感動!』

●基本方針

例会とは一ヶ月に一度、メンバーが理事長の想いを直接聞くことによって、自分たちの進む方向を確認する場であり、また全メンバーが一堂に会す貴重な場であると考えます。先輩方によって途切れることなく世代を超えて受け継がれてきた60年間の伝統を守りつつ、福岡の未来を考え、福岡の更なる発展に繋がる例会を開催致します。

また例会への参加はメンバーの権利であり義務ではありますが、強制的でなく、今月も得るものがあつた、来月も行くこうと思っただけの例会を1年間通じて目指します。

委員会では、例会を設営・運営するにあたり、メンバーが親睦を深める場となるような設営や、出席率を上げる方法など、様々なアイデアを出し合い取り組んでいきましょう。そして一生の付き合いができる仲間との出会いや、自然と涙が溢れてくる様な感動を、率先して行動することで共に体験しよう。

●事業計画

◇例会の企画・運営

□各種例会の実施

〈目的〉例会を通じて、理事長の想いや、様々な情報を全会員に届ける。また会員同士の交流を図り、親睦を深める場とする。

〈方法〉全会員がわくわくするような例会を設営し、参加促進活動を行う。

□福岡ブロック第3エリア合同例会の実施

〈目的〉第3エリア内のLOMの会員同士の交流を図り、互いのJC運動について理解を深める。

〈方法〉他LOMの例会委員会と連携しながら、互いのJC運動を相互理解出来る様な企画を行う。

□ファミリーレクリエーション例会の実施

〈目的〉JC活動を支援していただいているご家族の皆様にも、JC活動を理解していただくと共に、「感謝」の気持ちを伝える機会とし、またご家族同士の交流をはかる。

〈方法〉会員と家族が交流を楽しめるような場を企画し、設営する。

◇60周年実行委員会に関する事項

〈目的〉福岡JCの60周年を盛大にお祝いすること。

〈方法〉60周年実行委員会と連携を図り、各委員会の担当業務を遂行する。

◇こども会議に関する事項

〈目的〉こども会議25周年事業を通して、福岡JCの歴史や事業の意義を理解すること。

〈方法〉こども会議関係室と連携を図り、各委員会の担当業務を遂行する。

◇会員拡大に関する事項

〈目的〉社会の原点は人であり、人の原動力は、心から信頼しあえる仲間存在にほかなりません。団塊ジュニア世代の卒業が近づくといった会員減少の危機感をもち、これからもダイナミックな活動を、より多くのメンバーと展開するために会員拡大を行います。

〈方法〉全正会員が拡大活動を常に心がけ、定期的に理事会構成メンバーで拡大推進会議を行う。それらの集約した情報を拡大委員会で取り纏め、新入会の促進を行う。

委員長 国本 広次
副委員長 馬渡 卓也
総括幹事 岡本 虎丸
運営幹事 庄野崎 源太
会計幹事 山本 良一
広報幹事 北原 明典
大嶋 洋平
城戸 崇吉
黒木 真美
児嶋 健太郎
永延 雄也
中村 隆政
福地 太郎
柚木崎 政和
吉永 大祐

委員会年間スケジュール

	上程スケジュール	行 事		上程スケジュール	行 事
2012年 11月		(釜山JC60周年記念式典)12日	6月	□討議□協議(8月度例会事業計画) □討議□審議(4月度例会事業報告)	ファミリーレクリエーション例会の実施
12月	□討議□協議 (新春例会事業計画)		7月	□討議□審議(8月度例会事業計画) □討議□協議(9月度例会事業計画)	サマコン(横浜)20日-21日 こども会議
2013年 1月	□討議□審議 (新春例会事業計画) □討議□協議 (3月度例会事業計画)	新春例会の実施 京都会議17日-20日	8月	□討議□審議 (ファミリーレクリエーション例会事業報告)	8月度例会の実施 入会審査(後期)
2月	□討議□審議(3月度例会事業計画) □討議□協議(4月度例会事業計画) □討議□協議□協議□協議(ファミリーレクリエーション例会)	60周年記念式典 近出	9月	□討議□協議 (11月度例会事業計画)	
3月	□討議□審議(4月度例会事業計画) □討議□協議□協議□協議(ファミリーレクリエーション例会) □討議□審議(新春例会事業報告)	60周年記念事業 第3エリア合同例会(福岡)の実施	10月	□討議□審議(11月度例会事業計画) □討議□協議(12月度例会事業計画) □討議□審議(8月度例会事業報告)	全国大会(奈良)3日-6日 やすらぎ荘 JCキャンプ
4月	□討議□審議□協議□審議 (ファミリーレクリエーション例会)	4月度例会の実施 入会審査(中期) APCCチャリティゴルフ	11月	□討議□審議(9月度例会事業報告)	世界会議(リオデジャネイロ)5日-10日
5月	□討議□審議 (3月度例会事業報告)	広島定期交歓会(福岡) ASPAC(韓国光州)22日-25日	12月	12月度例会の実施	入会審査(前期) 送る夕べ

総務財政委員会



■委員長スローガン

『ルールを守る!そして常に前向きに!』

●基本方針

福岡のまちのため、市民のための事業であったとしても、ルールが守られていなければ意味がありません。我々JCメンバーは、まず率先して、JC、そして社会のルールを守る存在でなければなりません。

総務財政委員会は、定められたルールの周知徹底、各会の円滑な運営、ならびに期日・時間の厳守、そして、会員からの貴重な会費が各委員会の事業に適正に使われているかを厳正にチェックすることを使命とし、厳しく、そして熱意を持って、各委員会が素晴らしい事業を行えるようサポートしてまいります。

総務財政委員会は、LOMの要の委員会です。常に前向きに行動し、一年を通して、委員会メンバー一人ひとりが、笑顔で楽しむことが出来る運営を目指します。

●事業計画

- ◇総会、理事会、常任理事会の設営、運営
 - 〈目的〉各会を効率的、有益性の高い会議を運営して、福岡JCの意思を明確にする。
 - 〈方法〉各会の役割分担を明確にし、円滑な運営を行う。
- ◇役員、副、幹事セミナーの設営、運営
 - 〈目的〉各会の運営、規律、議案の上程方法、スタッフの役割等を明確にし、活動の円滑化を図る。
 - 〈方法〉マニュアルを作成し、セミナーを実施することで周知徹底を図る。
- ◇委員会事業に関する予算、決算の事前審査およびコンプライアンス管理
 - 〈目的〉貴重な会費を使って行われる事業予算が適正であるかを審査、およびコンプライアンス管理。
 - 〈方法〉議案書に対し、予算が適正に使用・処理されているかをメンバー全員で精査する。また、対外の目に触れるものは、すべてコンプライアンスチェックを行い、適正に処理されているかをチェックする。
- ◇各委員会議事録、事業報告書の管理、保持
 - 〈目的〉各委員会が毎月適正に運営されているかを確認し、議事録・事業報告に関して自覚を促す。
 - 〈方法〉各委員会からの議事録提出状況を把握し、期日内提出を徹底する。
- ◇法人格変更に関する事項
 - 〈目的〉一般社団法人格取得に関する手続きを行う。
 - 〈方法〉申請書類の作成・提出ならびに県等と協議を行い、一般社団法人格を取得する。
- ◇会員褒章の企画、実施
 - 〈目的〉会員がモチベーション高く活動できるよう、各種褒章を設定する。
 - 〈方法〉各種褒章の企画・上程・実施。
- ◇会員規律、入会に関する事項
 - 〈目的〉会員の規律維持を徹底し、誇りある組織の構築、組織の永続性を目指す。
 - 〈方法〉会員に規律徹底を促し、新入会員には入会審査時に分りやすく説明することにより、強く魅力あるJCの永続を意識し続ける。
- ◇60周年実行委員会に関する事項
 - 〈目的〉福岡JCの60周年を盛大にお祝いすること。
 - 〈方法〉60周年実行委員会と連携を図り、各委員会の担当業務を遂行する。
- ◇こども会議に関する事項
 - 〈目的〉こども会議25周年事業を通して、福岡JCの歴史や事業の意義を理解すること。
 - 〈方法〉こども会議関係者と連携を図り、各委員会の担当業務を遂行する。
- ◇会員拡大に関する事項
 - 〈目的〉社会の原点は人であり、人の原動力は、心から信頼しあえる仲間存在にほかなりません。団塊ジュニア世代の卒業が近づくといった会員減少の危機感をもち、これからもダイナミックな活動を、より多くのメンバーと展開するために会員拡大を行います。
 - 〈方法〉全正会員が拡大活動を常に心がけ、定期的に理事会構成メンバーで拡大推進会議を行う。それらの集約した情報を拡大委員会で取り纏め、新入会の促進を行う。

委員長 伊藤 忠相
 副委員長 藤野 友章
 総括幹事 宿久 徹太郎
 運営幹事 中島 大介
 会計幹事 多賀谷 兵馬
 広報幹事 添田 恵一
 黒木 淳司
 後藤 繁識
 佐藤 淳二
 澤木 亮治
 手嶋 健太郎
 中村 智海
 西川 真太郎
 比嘉 友彦
 牧 祐仁

委員会年間スケジュール

	上程スケジュール	行 事		上程スケジュール	行 事
2012年					
11月		役員・副・幹事セミナー運営	6月		議案審議・常任理事会・理事会運営 ファミレク
12月		議案審議	7月		議案審議 常任理事会・理事会運営 サマコン(横浜)20日-21日 こども会議
2013年					
1月	□討議□協議□協議□協議 (褒章要綱)	議案審議 常任理事会・理事会運営 京都会議17日-20日	8月		議案審議 常任理事会・理事会運営 入会審査(後期)
2月	□討議□審議□協議□審議 (褒章要綱)	60周年記念式典 議案審議 常任理事会・理事会・総会運営 近出	9月		議案審議 常任理事会・理事会運営
3月		60周年記念事業 議案審議 常任理事会・理事会運営 第3エリア合同例会(福岡)	10月		議案審議 常任理事会・理事会・総会運営 全国大会(奈良)3日-6日 やすらぎ社JCキャンプ
4月		議案審議 常任理事会・理事会運営 入会審査(中期) APCCチャリティゴルフ	11月		議案審議 常任理事会・理事会運営 世界会議(リオデジャネイロ)5日-10日
5月		議案審議 常任理事会・理事会運営 広島定期交歓会(福岡) ASPAC(韓国光州)22日-25日	12月		議案審議 常任理事会・理事会・総会運営 送り出し

入会審査(前期)
送る夕べ